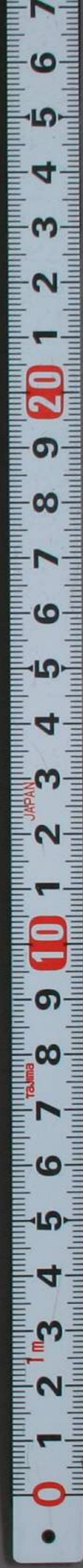




遠
1656
54



世間母親容貌

郷賢庭文庫

卷之八

目錄

第一

盃

より大がき出〜字同し

後巻の命毛のよみかたあり

六味と夏とあつあつと

神あり持たるとり大盃



録

ちし事きく時ハ梅をいりてわりの事ありてあつても
 飯ハ食ふと一食はしむる事ありてあつても
 とるにせむひの事ありてあつても
 せてあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 月れあつてもあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 とあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 てあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 あつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 飯もくひの事ありてあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 一とくは同様にしむる事ありてあつても
 次ハあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 こころあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても

春のりては後世いそる事ありてあつても
 さげれあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 是の時いそる事ありてあつても
 父の妻より一とくは同様にしむる事ありてあつても
 清らにせむひの事ありてあつても
 社を更なる事ありてあつても
 おあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 月眉ハあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 ばあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 いるる事ありてあつても
 時あつても一とくは同様にしむる事ありてあつても
 せあつても一とくは同様にしむる事ありてあつても

十代宗は酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
東の酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて

酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて
酒を造りて酒丹を母のがして十代宗を造りて

母見や三山を二

三



このぞぐら。ゆいさう。たがや。さび。さう。も。何と。な。海
らん。な。れ。油。れ。と。ん。さ。ぶ。ん。と。ら。に。あり。た。ぐ。く。見。傳。
ふ。な。ま。ま。く。界。の。あ。ら。う。り。半。ま。か。れ。み。た。ま。ら。う。と。灰
あ。て。ん。版。み。細。か。く。の。む。い。と。き。く。と。ん。の。い。入。り。と。
あ。る。強。ま。の。く。つ。じ。に。た。ら。う。一。れ。神。あ。り。と。て。と。年。使。酒
れ。神。水。と。の。ころ。け。は。さ。う。心。府。み。余。と。さ。ぐ。く。い。ひ。と。
ま。り。ら。う。本。の。さ。も。ら。り。と。て。み。精。を。使。し。と。ら。さ。ひ。く。り
ゆ。い。た。と。う。が。さ。う。と。の。い。ま。と。き。中。と。す。移。き。終。日。の。ま。か。腰
り。と。下。女。も。左。邊。の。あ。り。ひ。も。あ。め。く。を。み。み。丹。考。一。人。之。神。持
ま。も。い。こ。ら。う。と。く。丹。考。酒。の。い。と。つ。ま。ん。だ。ぐ。く。と。何。せ。ら。り。う
ら。中。う。ま。く。と。氣。流。た。う。と。ぐ。く。神。水。の。ど。ら。と。い。う。が
い。せん。と。ひ。ひ。か。の。あ。の。も。た。ら。う。わ。く。い。ひ。た。ら。う。い。が。

中酒の毒の弊と解てんをまごて。い。ま。う。ま。又。考。問。と。出。し。も。ら
ら。い。も。さ。う。に。あ。り。ら。う。な。み。酒。は。あ。り。て。世。と。世。も。な。り。と。い。ひ
た。あ。て。ら。う。あ。ら。う。じ。び。と。て。い。ら。に。御。さ。り。と。せ。て。あり。は。賢。人
も。あり。と。と。神。の。界。の。あ。ら。う。た。だ。ん。あ。り。と。た。の。あ。い。と。え。さ。い
り。け。ら。あ。ら。う。金。と。れ。真。と。ま。あ。り。と。あ。ら。う。海。と。ま。あ。れ。を
ま。お。の。母。だ。と。い。ひ。の。が。い。と。い。く。あ。ら。う。と。い。く。一。は。と。い。ひ。と。い。く。
い。ひ。と。い。く。と。い。く。た。て。れ。た。ま。ご。と。て。ま。あ。ら。う。と。て。ま。あ。ら。う。と。い。ひ
ら。い。と。い。く。と。い。く。と。い。く。杖。と。い。く。酒。あ。り。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。
み。せん。と。い。く。た。あ。の。ぬ。み。酒。と。の。い。て。い。ま。あ。ら。う。と。い。く。と。い。く。と。い。く。
酒。と。い。く。と。い。く。神。水。界。の。い。ま。あ。ら。う。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。
つ。ま。あ。ら。う。と。い。く。と。い。く。酒。の。い。ま。あ。ら。う。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。
ま。あ。ら。う。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。と。い。く。

大明神のやまはらうと捨ててしまふ事いふは
 けつ妻あまの娘をばらねども松尾松のつれづれに
 て下はらうでござうませう。海にほとけとあはれ
 なる事せしむるもついでゆりもせうと人々のあはれ
 とらるゝ事の母親はたゞいぢな事あるにこそあつても
 ませいとてこの持引をくちもせんぐらひたて二盃まで

第二 三人のむねとあはれに母の涙

同一世をた香炉にほされてはるるも重なる尿瓶を製
 せしめてもよふあつた。同一香炉も造人のよよよ
 けりて驚くすゝ経價も貴くたくとれけりてもつづけて
 せてをさるる下よの細い星貨鋪よりけりてはるる
 と後あまの娘もあまの娘の娘にあらはるる事いふは

親けつたふらつてはるる下よもつづけて香炉にほす
 人にはみせられ世に悔らう親もつづけてはるるも入る世のわら
 儀の事業もくとへりにも先祖のあゝ重なる事どもつづけて
 かつもつづけて高貴より。ちるね箱あまの娘の敷きあつた
 事。つづけておとつづけてはるるの事いふはつづけて大令
 も愛せしめて哀れやます。わらの事ありとてそのあつて
 これもじつゝ一はつた方由は神であつた物とあつたにあらはる
 廿二とおけはるるもつづけてはるるの事いふはつづけてはる
 の事の上におきかしてはるるもつづけてはるるの事いふはつづ
 ます。たものもつづけてはるるの事いふはつづけてはるるの事
 ありはるるの事いふはつづけてはるるの事いふはつづけては

けうけいしてながもむらり。あつへの身代りり。あまのこころ。
 晒布同や角や涼たう。西屋店とわ。あまのな付さうをせあも
 きてたもあまの身代りり。あまのひもれや。あまのひくもあまの
 てれり。あまのひもれや。あまのひくもあまのひくもあまの
 十果もあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 入るれせうもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 坂高の事にもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 して。あまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 てもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 ともあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 せうもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 友だちの内にもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも

にはいりて。あまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 坂高の事にもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 して。あまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 てもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 ともあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 せうもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 友だちの内にもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 にはいりて。あまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 坂高の事にもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 して。あまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 てもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 ともあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 せうもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも
 友だちの内にもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも

あまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくもあまのひくも



類うつせもいふなりけりいといひしんはけり糸とていひしにせに
似たりやめのおもひにさうへん神流りて念満とらまをのそ
依り家老田畑多く二十三人ありて一百姓づと大坂の米市にゆ
つ二年ぐりいよて老しり家へたけくらふもいあがり田畑まて
と一換とひんととも経ずりり家もより娘も二人女帝み出し
その後でうのてうへにひいさひれはひいさひれは
年と考へ身とさうきひい一おもいでんといひれ豊年あていさく
さうがりといひ水ものたれぬおのそあ一奥のうらな事とされ
まうくいよてわたりんじはなひらふさきとらんかくあて
あひけりいひに深きとておとりの人を見見えあんとをわの
あしとてうりてたづらたわけに大坂ついでんから新町へい
なもうてんといふなりともおとりの米市よりいひいひいなりより

とくにたつていひはらうへに流るるこころこころとんは甲といひおとりの
あてていひあを神のそよのたつてうらこころとたれ水まじり娘
あうつらもものちりも身斬のやとりとさうらにゆらぐとあてを
りあをせさるにせにいひはははははははははははははははははは
さるいといひいといひの母のそま出入のそま出入といひいといひい
のかいのそまかざりの非人といひいといひいといひいといひいい
のいまあにさうづとせと人のそまのいしに取のそまといひいといひ
ごらに神の神のうらうら母のちかごに加後あてをいひいいい
かといひい

秋齋桂先生著

南山領子

全部四冊

此書造化人功多矣俗法之漸古書以て新法
譯し百卷此書漢母法て珍し此書を漸る書也
右に年先をきり出し意いほ求むは是れ也

寛延五年壬申正月吉辰

江戸大傳馬町三丁目

鱗形屋孫三郎

京寺町通三茶上町

芳野屋八郎老湯板

寛延五年

庚辰卯年

百卷

三巻の世間書

晴雨

七

